



「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道岩見沢西高等学校	
【活動の名称】 交通安全指導（挨拶運動）（春・秋）	
【活用した資源】各クラス生活委員	
【対象学年と活動の時期】 全生徒（春：年度初め 秋：前期終了頃）	
【活動の概要】 ・通学路の交差点で生活委員と教員で交通ルールの遵守と朝のあいさつを啓発する。 （雨天時は生徒玄関で挨拶の啓発と傘立て使用のマナー指導）	
【ねらい】 ・挨拶をすることで生徒同士を知るきっかけとする。（絆づくり） ・交通ルールやマナーを守る習慣を身に付け、社会性を身に付ける。	
【活動の流れ】	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【事前の活動】 各クラスの生活委員が打合せを行い、活動のねらいや、活動における留意点などについて確認する。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【おもな確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらい ・活動する場所 ・恥ずかしがらずに積極的に挨拶をすること ・相手の目を見て挨拶をすること ・元気に大きな声で挨拶をすること </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【当日の活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各クラスの生活委員と、生徒指導部の教師と一緒に、生徒の通学路の交差点に立つ。 ②各委員は交通ルールの遵守を促すとともに、挨拶をする。 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【生徒の主な感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝から挨拶をしてすがすがしかった。（3年生） ・知らない生徒に挨拶するのは恥ずかしいと思ったが、挨拶を返してくれるので、活動が楽しくなった。（2年生） ・自分たちが、何かの役に立っていると思えた。（2年生） ・最近、話をしなくなった友達も挨拶してくれた。（2年生） ・みんなが協力してくれて嬉しかった。（1年生） ・決まった日だけではなく、毎日挨拶することが大切だと思った。（1年生） </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【雨天時の活動】</p> <p>☆雨天時は生徒玄関で挨拶を励行するとともに、みんなが傘立てに入れやすいよう、傘立てに傘をしまうとき、タッセル（ひも）で閉じるようお願いする。</p> </div>	
	
<p>（活動のねらいを説明したことにより、みんなが気持ちよく協力してくれました）</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ろうとする習慣がついた。 ・他の人のことを考えることにより、マナーの大切さに気づいた。 ・挨拶を通して仲間意識が芽生えた。 ・生徒の登校の様子を観察することによって様々な発見があった。（教師） </div>	

- 生徒を主体とする活動にすることにより、活動への目的意識や自己有用感を一層高めることができます。
- 短時間の活動でも、全校生徒に働き掛けることによって、仲間意識を育むきっかけとすることができます。



「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道岩見沢西高等学校
【活動の名称】 薬物乱用防止教室
【活用した資源】 外部講師（岩見沢警察署生活安全課）
【対象学年と活動の時期】2学年 4月年度当初

（項目エー観点①絆づくり）

【活動の概要】

- ・地域の講師を招き、薬物の乱用防止についての講演をしていただき、その中で犯罪の現状を知り、各自が犯罪に巻き込まれないようにするためにはどのような行動をとるべきなのかを考える。

【ねらい】

- ・ルールやモラルを守らない人に対して忠告できる態度を養う。

【活動の流れ】

- ①生徒指導部の教員が主催し、外部講師への依頼や打合わせを行う。
- ②各担当が、薬物に関する知識の事前指導を行う。
- ③質疑の内容を考えさせる。

前日のSHRの時間を利用し、1年次に学習した保健体育の授業の内容などを担当が確認しながら質問する。危険ドラッグによる交通事故の話題などに触れる。

- ④講演を聴いた後、感想を書かせる。

（生徒の感想）

- ・自分や周りの人がこのような危ない目に遭わないようにもっと多くの人に薬物の知識を知ってもらいたい。
- ・社会に出て、もし、所持している人に勧められても断る勇気を持ち、注意して生活していきたい。
- ・身近に感じることはありませんが、細心の注意を払って生活したい。
- ・何気ない会話から少しの興味でやってしまったことが、取り返しのつかないことになると分かった。
- ・将来、薬物を勧められたり、仲のよい人に誘われたりしても、断れる人になって、自分や周りの人を守りたい。



〈真剣に話を聴く生徒〉

（担当者の感想）

- ・社会的に許されないことについて判断する力を身に付けるとともに、生徒同士が互いに悪いことは悪いと忠告しなければならないという態度を養うことができた。



〈岩見沢警察署生活安全課による講演〉

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・世の中の善悪に対する考え方を明確にすることができた。
- ・周囲の状況に気を掛け、関わり合いながら助言できる力を身に付けることができた。

- 自分の取るべき行動について考えさせることにより、望ましい人間関係を築くためにすべきことについて考えさせることができています。
- 講演を聴くだけでなく、振り返りを行うことにより、生徒の考えを把握し、その後の指導に生かすことができています。



「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道札幌東豊高等学校
【活動の名称】 学校説明会
【活用した資源】生徒会活動、部活動生徒、参加希望中学3年生
【対象学年と活動の時期】生徒会執行部、部活動生徒 11月

（項目ウ—観点②絆づくり）

【活動の概要】
・中学生に対し、高校生活・施設見学・部活動見学について、生徒から説明及び案内を行う。

【ねらい】
・中学生が安心して入学できるよう、説明会の工夫をさせることで、主体的な態度を育成する。
・活動の準備を通して、仲間のよさに気付かせる。

【活動の流れ】
①受付 ②校長挨拶 本日の日程説明 ③学校説明（生徒による説明・行事・課外活動・高校生活・進路状況などについて） ④体験学習 ⑤施設・部活動見学



4月から、ぼくたちと一緒に部活動を頑張ってみませんか。

〈高校生が、学校の様子などを丁寧に説明します。〉



早く、このような高校生活を送ってみたい。



〈中学生は、真剣に話を聴き、積極的に質問をします。〉

（高校生の感想）

- ・自分が中学生のころ、高校入学までの毎日が不安だったことを思い出し、少しでも役に立ちたいと思って準備を進めた。
- ・説明会を成功させるため、みんなで協力して準備したことが楽しかった。

（中学生の感想）

- ・不安な気持ちが少し無くなりました。今は、この高校で高校生活を送るため、勉強に頑張りたいと思っています。

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・学校や仲間のよさについて一層理解を深め、充実した学校生活を送ることができるようになった。
- ・本校の様子が理解できた上で学校生活をスタートできることにより、前向きな人間関係を築こうとする雰囲気醸成され始めた。
- ・意欲的に高校生活を過ごしたいと望む生徒の増加により、互いを認め合うことに繋がり、円滑な人間関係の構築が行われるようになった。

- 中学生のために準備を進める中で、仲間と協力することにより、学校や仲間のよさに気付かせることができています。
- ガイダンス機能を充実させることにより、中学生のときから、高校生活への目的意識が明確になり、入学当初から様々な場面で、望ましい人間関係を築こうとする生徒同士の働きかけにつながっています。



「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道札幌東豊高等学校
【活動の名称】 地域の行事への参加 ～さっぽろ雪祭りつどーむ会場ボランティア～
【活用した資源】生徒会執行部・部活動生徒・希望者
【対象学年と活動の時期】全校生徒 2月

（項目ウー観点③環境づくり）

【活動の概要】

- ・つどーむ会場での「竹スキー」体験の補助活動を通じて、来場した児童生徒等と交流する。
- ・スノーオブジェコンテストへ参加する。

【ねらい】

- ・「さっぽろ雪祭り」の運営に協力し、近隣の児童生徒等と望ましい交流の在り方を工夫させる。
- ・年齢の異なる、外部の人々との交流を通じて、好ましい人間関係や社会との関係を構築しようとする自主的な態度を育成する。

【活動の流れ】
（事前）

①生徒会担当顧問が、雪祭り実行委員会の会議に参加し、東豊高校の役割分担を確認する。

②役割分担に応じて、作業を進める。

生徒会執行部→全体の調整など

野球部→竹スキーの作成

美術部→スノーオブジェ（雪像）の作成

※お手伝いの生徒を募集し、総勢50名程度となった。

②生徒会執行部を中心に、児童生徒等に接する際の留意点について説明するための事前打合せを行う。

（当日）

①部活動顧問等が出欠確認をし、当日の役割分担を行う。

②会場において「竹スキー」のイベント運営やダンス、交通整理などに取り組む。

※東豊高校の主な役割は、毎年、この2点となりますが、他に会場で様々なお手伝いをします。

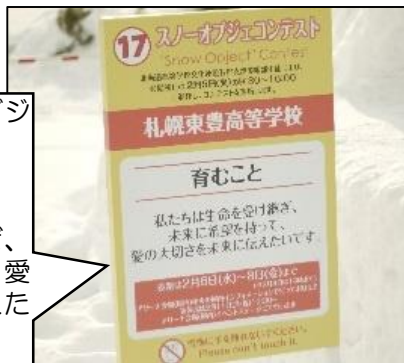
※竹スキーは、全長30cmほどの、短いスキーで、生徒が作成します。体験後はプレゼントしています。



使い方は、お兄さんたちが教えてあげるからね。

東豊高校のスノーオブジェの紹介

タイトル「育むこと」
私たちは命を受け継ぎ、
未来に希望を持って、愛の
大切さを未来に伝えたいです。



（母親が子どもを抱きしめている様子を表した作品）

【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】

- ・普段接することの少ない児童生徒等との交流によって、前向きな人間関係を築こうとする雰囲気醸成された。
- ・友だちと協力して、他者の役に立つことの喜びを経験することを通して、幅広い人間性の形成につながった。

- 生徒が準備から実施まで、地域の活動に貢献することにより、地域の一員である自覚を深めさせるとともに、自己有用感を育むことができています。
- 生徒がスムーズな進行について考えたり、竹スキーやスノーオブジェを作成したりすることにより、仲間と一緒に活動することのよさについて、理解を深めることができています。



「主な活動（概要）」（高等学校）

【学校名】北海道倶知安農業高等学校	<table border="1"> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												
【活動の名称】 コミュニケーションスキルトレーニング	<p>(項目ア—観点③環境づくり)</p>												
【活用した資源】 子ども理解支援ツール「ほっと」に関わる様々な演習													
【対象学年と活動の時期】全学年 4月と5月、10月													
<p>【活動の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめを未然に防止するためには、ルールを守ること（規範意識 ほっと調査項目15）と拒否する力（ほっと調査項目9）、更に相談や援助要請できる力（ほっと調査項目22、23）を身に付けることが必要なことから、それぞれの「ほっと」調査項目に「2」「1」を選んだ生徒に対して教育相談を行う。 「ほっと」の結果からクラスの特徴と（2、3年生については）成長について説明する。ロールプレイング等の演習を通してコミュニケーションスキルを身に付ける。個人の課題と併せて、クラスづくりについてどのようなクラスにしたいか、そのためにはどのようなルールが必要か、などについてグループワークを通して考え、これからの学校生活で実践する。 													
<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人や学級のコミュニケーションスキルの強みと弱みについて理解する。 演習を通して規範意識を身に付けるとともに拒否や相談、援助要請などの意思決定と行動選択ができる。 グループワークを通してクラス集団の力を発揮して、諸活動を成功に導く。 													
<p>【活動の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①-1 4月に「ほっと」を実施する。 ①-2 担任が入力し、生徒指導部が学級、個人のデータを作成する。 ①-3 学年毎に資料を用いて、「規範意識」や「拒否」、「相談」の状況について、面談を通して生徒を理解するとともに、その結果について学年で学級の状況と併せて理解し、課題について確認する。 ②-1 LHRで「ほっと」の結果、学年の特徴と課題について、説明する。 特に、いじめを未然に防止するには、規範意識をもつこと、嫌なことを言われたら拒否できること、困った時には相談できる（人がいる）ことが大事なことを理解させる。 ②-2 プチ自慢に対してほめてもらうワークを行い、自尊心を育てることの重要性を認識させる。 ②-3 話を遮る聞き方と正確に伝えるスキルについて演習し、振り返る。 ②-4 どんなクラスにしたいかを話し合い、カードに書きグルーピングして「フィッシュボーン」を作成する。 ②-5 コミュニケーションスキルトレーニングの必要性についてまとめる。（少子高齢社会を迎え社会が激変した時、有効なスキルはコミュニケーションスキルと健康な体であることを説明する。） <div data-bbox="1002 1066 1428 1361" style="text-align: right;"> </div> <p style="text-align: right;">〈グループでフィッシュボーンを作成する。〉</p>													
<p>＜生徒の感想＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ②-2 ほめてもらうのは恥ずかしく、緊張したが、嬉しくなった。 ②-3 話を遮られると面倒くさく、関わりたくないと思った。正確に伝えることは難しい。 ②-4 フィッシュボーンが思っていたより意外と楽しかった。次はもっと色々なことを話せたらいいと思った。 													
<p>【いじめの未然防止に関わる本活動のメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談では個人、コミュニケーションスキルのトレーニングでは集団に働き掛けることにより、個人と集団のそれぞれが相乗的に成長することができた。 「ほっと」の結果を活用した教育相談において、自己理解が深まり、「様々な活動に頑張ろうという気持ちをもつことができた」という声が多くの子から聞かれた。 3年生においては、適切な進路選択に向けた教育活動に意欲的に取り組む様子が見られた。 													

○ 「ほっと」の結果や教育相談、日常の指導が関連付けられていることから、生徒一人ひとりと学級が相乗的に成長することができています。

○ 「ほっと」については、年間を通して、複数回実施し、その変化を全教師が把握することにより、結果に対応した指導を行うことができています。

